

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも百姓宣言

「食料安全保障の議論が急がれる」
「過去最低に落ち込んだ食料自給率」

農林水産省が公表した食料自給率に驚きを隠せずにはいられません。2018年度の力ロリーベースの食料自給率は、37%となり、過去最低の水準にまで落ち込んでしまいました。国が目標とする45%からはほど遠く、少なくなるとこの10年間、1%も上げるこゝとが出来ていません。国は毎年、食料自給率低迷の要因を分析しますが、根本的な要因に対する打開策を打ち出す必要があります。毎年のように自然災害が猛威を振るい、天候不順だけを言い訳にはできなくなっています。地域農業の生産基盤の弱体化に歯止めがかからない状況が深刻さを増しています。個々に見ると農業経営の規模拡大は進んでいますが、地域で面的に見ると離農される農家の方を力パーすることはできません。

地域農業が活気ある状態で維持されていくには、家族経営を中心とする中小規模の担い手に対する支援が不可欠です。地方では、農業を含めた1次産業が基幹産業で、たくさんの雇用が生まれています。しっかりと農業者の数を維持し、多様な経営体が共存できるような農政の確立に努めます。

「日米間の貿易交渉」

アメリカがTPPからの離脱して以降、日米間の貿易交渉がどうなるのか、私たちは不安なまま過ごしてききました。政府に生産現場の方々に十分な情報提供と説明責任を尽くして欲しいと何度も要請してきました。先日、フランスで行われた日米首脳会談で大枠合意し、9月末の署名を目指し大詰め議論が行われるということ。「農産品の関税撤廃率については、TPPをはじめとする過去の経済連携協定の範囲内に収まるように作業を進めている」との説明だけで、私たちの不安は払拭されたわけではありません。やはり肝心なのは、我が国の食料安全保障、農業経営基盤の維持です。最終局面を迎えて、私たちの主張がどうなるか注視し、党の議論をしっかり後押ししていきます。



▲静岡からの視察団を案内(熊本県内)

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「三期目の選挙と私の決意」

「皆様のご支援に感謝」

3期目を目指した参議院議員選挙は、皆様のご支援で当選させていただきました。本当にありがとうございます。

JA全中や全国農政連の臨時総会等の場をはじめ、御礼を申し上げる機会をいただくことができ、改めて感謝申し上げます。全国を駆け回り、皆様からいただいた負託に応えるべく、こう6年間、「農に生きる」「地域と生きる」信念で、徹底して頑張ります。

「選挙結果をきちんと総括します」

1期目や2期目と比べて、票を減らす結果となりましたが、こうして当選させていただいたことを振り返り、私自身に何が足りなかったのか、これまでの議員活動の評価がもたらしたもののなか、農業政策でしっかり主張できなかったからなのか、各地で皆様に訴える内容が的を得ていなかったのか、選挙戦略として何を欠かしていたのか、きちんと総括します。

私自身に帰する問題は、当然、私の不徳の致すところであり、徹底して反省し、改めて、これからの6年間で皆様の信頼回復や、新しい努力を積み上げてまいります。

けてまいります。多くの皆様のご指導や支えのもと改善し、見直しを徹底します。私は、謙虚に、真摯に、それを行う覚悟です。

「反省し、しっかりと頑張ります」

私自身のことを一番に反省し、皆様からのさまざまなご意見、それに応えるための対策、そのための決意を定めて取り組みます。農業・農協を取りまく課題は山積していますが、農協改革をしっかりとね返し、農林水産業の担い手づくりと経営所得安定対策の強化をはじめとするさまざまな対策に全力をあげるとともに、地域重視の新しい政策の流れをつくり上げます。そして、力強い協同の取り組みを進めましょう。引き続き、皆様からのご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。



▲TPP交渉における国益を守り抜く会と党のTPP対策本部との合同会議(8月20日)で、日米交渉に対する農業者の不安の声を強く訴え